石見の歴史を貫いた浜田自動車道

浜田自動車道から見る、石見の縄文時代から江戸時代まで

山陰と山陽を結ぶ動脈として活躍している浜田自動車道。ここでは、この道路と周辺の道路を作るときの発掘調査でわかった、石見の歴史を紹介しましょう。

駆けめぐる石見の縄文人

石見山間部に人が住み始めたのは、いつごろでしょうか。瑞穂町の堀田上遺跡では二～三万年ぐらい前の石器が出ていますから、このころには人びとの営みが始まっていたようです。同じ瑞穂町にある郷路橋遺跡では、食料用のトチの実を蓄えた跡を残す、六〇〇〇年前のムラが、また金城町の岩塚Ⅱ遺跡では五〇〇〇年前のムラが見つかっています。縄文時代と呼ばれる時代、豊かな自然を求めて山間を、また良質の石器の材料を求めて、遠く九州や四国、隠岐の島まで駆けていた縄文人の姿が浮かんできます。

支配者たちの古墳が登場

やがて米作りが始まり生活は向上しましたが、富を持つ者は人びとを支配するようになりました。平地を中心にムラが生まれ、そのムラを治める首長が現れました。支配する人はその象徴として古墳を築きましたが、旭町のやつおもて18号墳は石見山間部では最大の大きさで、小高い丘の上に、平地に暮らす人びとを見下ろすように築かれています。やがて古墳を造る力を持った人は各地に現れ、小さな谷間の集落ごとに古墳が見られるようになりました。旭町のやつおもて古墳群や小才遺跡がそうです。

政治・文化・交通の要

古墳が築かれたころの人びとの生活をうかがうことができたのが、瑞穂町の今佐屋山遺跡です。ここでは、山陰の中でも早い六世紀末ごろから鉄を作っていました。また奈良時代には、石見部に三カ所しか建てられなかった寺の一つが旭町にあった（重富廃寺）ことから、このあたりが石見地方の政治文化の中心地の一つだったことがわかります。

瑞穂町と旭町は、山陰と山陽の交通の要です。それだけに南北朝の戦乱の時期から、街道を見下ろせる山の上に山城が造られます。瑞穂町の滝ノ屋谷城跡、桜尾城跡、旭町の森迫城跡などがそうです。織田信長や毛利氏が活躍した戦国の時代に、石見山間地域で熾烈な攻防が繰り広げられていたのです。

資源を活かして行われた、江戸時代のたたら製鉄

古代から行われた製鉄は、鎌倉時代から室町時代にかけても営まれました（瑞穂町・タタラ山遺跡）。江戸時代になると、中国山地一帯でたたら製鉄が盛んになり、全国有数の生産量を誇りました。原料の砂鉄を含むマサ土と、燃料の木炭が豊富にあったためです。瑞穂町だけでも三〇カ所の製鉄遺跡がわかっていますが、郷路橋遺跡では鍛冶のムラもありました。たたらと並んで中国山地の村々を支えたもう一つの産業が、木炭生産です。瑞穂町の米屋山遺跡や旭町の十文セド遺跡では大形の炭焼き窯が見つかり、当時の大規模な炭作りの様子がわかりました。

車窓から思いを馳せて

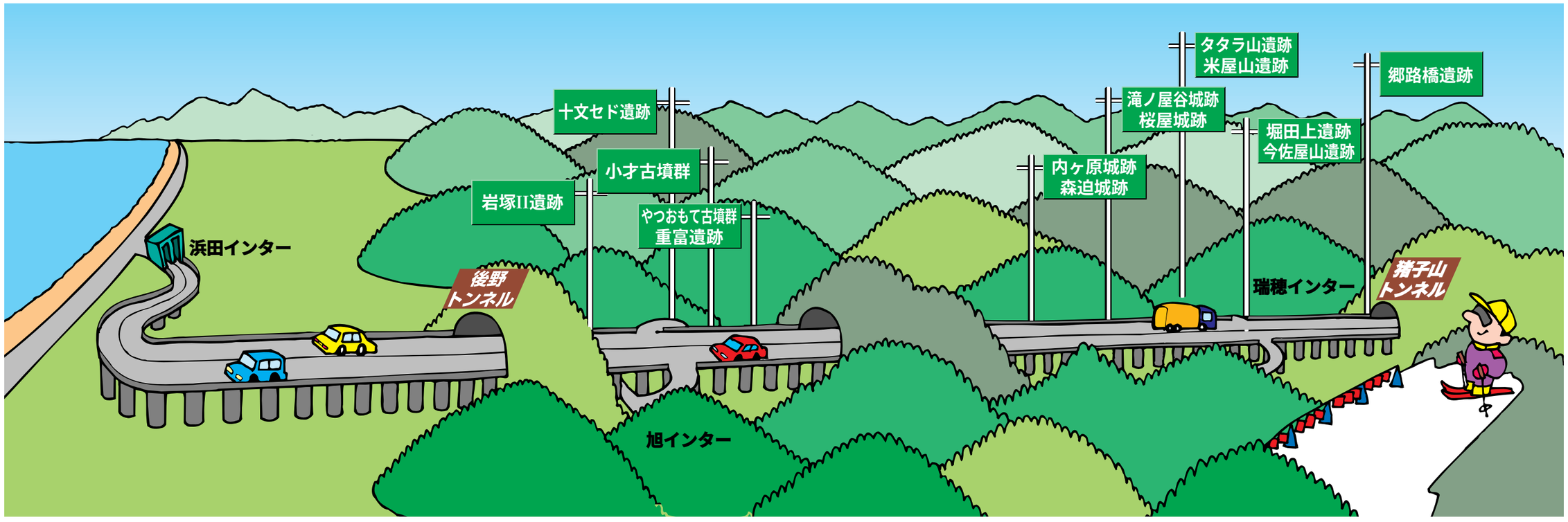
原始、古代から江戸時代にいたるまでの石見の歴史を、浜田自動車道を走りながら語ってみました。車窓から見える山々。ここでは古くから人びとが地域の資源を活かしながら、豊かな文化を生み出し、政治・生産・交通のうえで、重要な役割を果たしてきたのです。みなさんもぜひ浜田自動車道を走って、石見の歴史に思いを馳せてみませんか。

やつおもて18号墳

トチの実の貯蔵穴（郷路橋遺跡）

堀田上遺跡出土の旧石器時代の石器

炭焼き窯（米屋山遺跡）

滝ノ屋谷城跡

古代の製鉄遺跡（今佐屋山遺跡）